

<h1>ゆきんこ通信</h1>	No. 12 (5月号)	2015年 5月18日発行	編集 S・Cゆきんこ運営委員会 発行責任者 上田真巳 ☎ 054-257-3204 〒421-0101 静岡市向敷地 312-19 発行所 長島まり子 ☎ 054-296-3078 〒421-2118 静岡市内牧 100-2
新日本スポーツ連盟・静岡県スキー協議会加盟クラブ		(第22巻第12号通巻255号)	郵便振込 No. 12330-28606061 スキークラブゆきんこ 上田真巳宛

36枚x2

春スキー行事

4月11、12日に八方に行ってきました。
 メンバーは長島さん、中野さん、神山さん、鈴木さん、石上さん、早川で6名の参加でした。

4月には珍しく一週間前に雪が降り、かなり良いコンディションの雪質でした。

初日は深い霧・ガスが発生し20m先も見えない状態のため、回りのスキーヤー・斜面に気を付けながら滑っていたので、1日目のスキーは疲れモードでした。

旅館「はくは荘」に帰ってから温泉とお酒、美味しい食事で楽しい時間を過ごした。

部屋は6人部屋を2名ずつ使用させてもらい広々でぐっすり眠れました。2日目は前日とは違い天候に恵まれ、晴々とした日になりました。ゲレンデに行くとも視界と雪質が良好で気持ちよく滑走ができました。また頂上から見えたパノラマは最高でした。

今回、残念だったのは2日目に鈴木さんが体調をくずし休養を取りました。初日の悪天候の時は、早目に切り上げるのも考えたいと思いました。

私事ですが、今シーズンはだいたい毎月スキーに参加しました。長島指導員、中野指導員に指導を受け今シーズンはかなり上達したと思います。ありがとうございます。



2015 04 11

今シーズンのスキー行事も、5月の八方になりますので参加できる方は担当の宮田さんに電話して下さい。これからも、ゆきんこの行事に参加を宜しくお願いします。

早川



ゆきんこ日誌

- 3月7・8日 東海B第2戦 「野麦峠」 2名
- 3月14・15日 県・春スキー 「赤倉リゾート」 8名
- 4月11・12日 ツアースキー 「八方尾根」 6名
- 4月4日 花見お祭り会 「駿府城公園」

これからの予定

スキークラブ ゆきんこ

第35回 総会

6月14日(日) PM3:00~

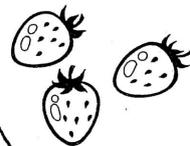
アゼル21(22集会室)

一打ち上げ

「まぐろ家」(PM5:30~)

会費:3000円

★出欠は、5/23までに早川まで
お願ひします。



「第35回の総会を行ないま〜す!」

みんな出席してください!」

590

★ウラ面に春スキー「小谷村」編がのってます。「スキー」系編は次号です。おたのしみに!

小谷村編

みやたすすむ

木の根元に残雪が大きく残っています。その雪の塊は埃などを付けてやや黒ずんでいます。

その黒ずんでいる雪の塊に八重桜の花びらが吸い付くように付いています。静岡では絶対に見る事のない光景です。

ここは小谷村五月三日のことです、その残雪の向こうには水芭蕉が咲きちらめら・フキノトウも花を咲かせています。今年もお天気に恵まれて吹く風も心地よい。まさに薫風とはこのことです。

今年の参加者特に多くて浜松より男女三人、名古屋より男女二人、静岡より九人の大所帯でした。浜松・名古屋の方々は除きまして、岩品、長島、中野、浅井、石上の各氏と神山さんの家族三人と私でした。それぞれがグループを組みそれぞれが違った時間に宿に着きました。

今年の小谷塩の道コースは浜松の中村里美さんがボランティアガイドを頼みましたので、いつもと違う楽しみをしてみました。

まず驚くことに地元の方だけあって、村の歴史・地形・山の植物の名前、どこそこにはワサビが自生しているとか、昔、姫川が塞がれて小谷村がニメートルも水に浸かった話などを聞いた。

途中、行者ニンニクが生えている所を教えてもらい、早速収穫に四、五本採って、同行している人にも分配して食べ終わったらその人があのニンニクは山の持ち主が作っているもので、自生しているものでないとのもった。私は、泥棒をしたのだった。しかし、それを一緒に食べた人も居るのだから、私一人だけが・・・と思ったのだ。

ボランティアの方の話が続きます。JR大糸線の白馬駅は、昔何もなかったところで、家が四軒しかない所だったので、四家五つやれと言う地名で、塩の道で人が沢山野垂れ死にをした所だった。助けを求めても近くに人家がなく、よく人が倒れていたと教えてくれた。スキー場ができたおかげで家も沢山できました。土産物店も沢山出来た。でも、現在はスキーもかげりが見えてきて土産物店も半分以上が店をたたんでいるこの事。

地元の人の話は興味深い。

小谷村の人たちは、私たちよそ者に対しても、警戒心がないのが嬉しかった。村の娘さんが、中学生か高校生か不明ですが、長者たちと話をしている、身内と話をするように普通に話をし、そして笑いとても好感がもてた。

「三丁目の夕日」と言う映画がありました。あの映画のワンシーンの中に私がそのまま入っているような気さえ起きました。この村人同志では、殺人事件など起きないなと思いました。

途中で、私たちのグループで体調が悪くて、歩くことが出来ない人がいました。ガイドの方が側にいた地元の方に話を付けてくれて、私の車を停めてある所まで送って呉れることのでしたが、私たちの泊まっている「はくは荘」まで送ってくれたとか。距離的に十キロ前後はあると思います。

送っていただいた方は申し訳ないと言つ気持ちで、カソリン代を差し上げたのですが、受け取りずしにそのまま走り去ったとか。

私はますます小谷村が好きになった。そして、来年も絶対小谷村だなー

心に誓った

